

2014年12月13日 12-16時

第45回 SED 実践セミナー(セデーショントレーニングコース)

@大阪医科大学 MSSC 報告書

①開催形態

開催施設責任者：林 道廣(大阪医科大学附属病院医療技能シミュレーション室)

開催協力部門：医療安全管理室、医療プロフェッショナル支援室

開催講座責任者：南敏明(大阪医科大学麻酔科学教室)

②インストラクター

コースコーディネーター

駒澤伸泰 大阪医科大学麻酔科学教室 MSSC

インストラクター

駒澤伸泰 大阪医科大学麻酔科学教室 MSSC

羽場政法 日赤和歌山医療センター 麻酔科部

吉田朱里 和歌山県立医科大学麻酔科

助永親彦 隠岐病院麻酔科

③参加受講生 名

学内 2名

麻酔科 2名

学外 22名

医師 16名 看護師 6名

近大奈良病院

JA 広島総合病院

県立広島病院

静岡県立こども病院

中東遠総合医療センター

前田ファミリークリニック

川崎医科大学附属病院

社会保険紀南病院×4

西宮市立中央病院

市立芦屋病院

東京大学附属病院

兵庫医科大学×2
倉敷中央病院
済生会神奈川県病院

④コース内容と学習目標

	学習目標
講義	米国麻酔科学会「非麻酔科医のための鎮静鎮痛ガイドライン」の解説を重視 受講前にテキストを送付し、事前学習の推奨
カードを用いた シミュレーション	鎮静薬と鎮痛薬の分類、相互作用の把握
マネキンを用いた 緊急時気道管理ハンズオン	呼吸状態の評価を意識づけ(呼吸パターン、回数、SpO2 等)、酸素投与法、基本的気道管理(バッグバルブマスク、ラリンジアルマスクを始めとした声門上器具)の習得
シナリオディスカッション	術前リスク把握、準備、必要なモニタリング、投与時の評価等、緊急時対応を質問し、知識の再確認や整理
シミュレーション環境を用いた シナリオトレーニング	臨床での実践対応に関してシミュレーターを用いて習得

⑤開催風景
講義



気道管理ハンズオン



カードシミュレーション



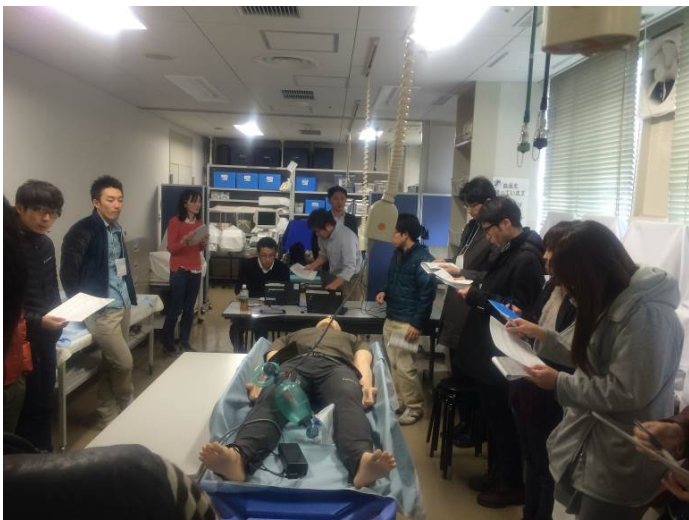
鎮静度評価

アンボット
 鎮静評価シミュレーション アンボット (前鎮痛剤投与後に対し鎮静薬の投与)

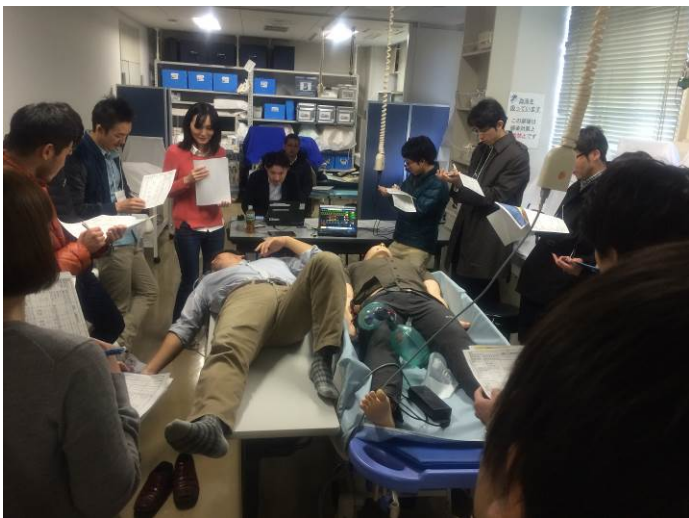
シナリオ: 患者 年齢 48歳 身長 168cm 体重 80kg 予備鎮痛剤内服が予定された。
 鎮静薬投与後鎮静薬を投与された状態
 鎮静薬投与後鎮静薬を投与したため、呼吸抑制が出たため、マスクによる酸素投与、下肢挙上による気道確保を行った。呼吸抑制が深くなったため鎮静薬を投与したところ、体動がなくなったため鎮静薬 (ミダゾラム2mg) の投与が決定された。今の鎮静薬投与後鎮静薬評価シートを添えて評価してください。

○評価の対象となる鎮静評価シートのサマリー

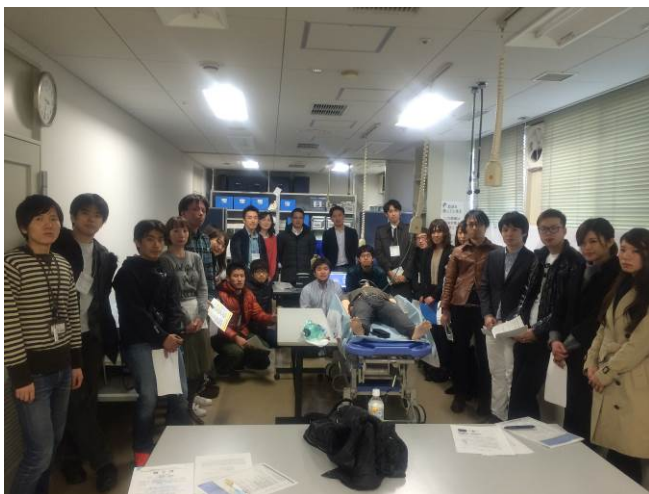
評価の項目	鎮静薬投与後	鎮静薬投与前
鎮静薬の使用	薬剤名、量、投与方法	ミダゾラム2mg点滴投与
鎮静薬の使用	薬剤名、量、投与方法	
意識レベル RASS	+4~5	-4 かつ +2
痛みレベル BPS	顔の表情: 1~4 上肢の挙動: 1~4	3
ASA鎮静の深さ	軽・浅・中・深・全	浅あるいは中・深
呼吸器の有無		あり
呼吸数	回	15
SpO2	%	92
CO2	mmHg	45
カブノ波形		防衛性パターン
呼吸関連の懸念		あり
心拍数	bpm	82
血圧	収縮期/拡張期	166/85
リズム		整
心電図異常波形		なし
循環関連の懸念		なし
体表釘痕		なし
処置、連絡などのアクション		処置の中断 呼吸補助が必要と考える



シミュレーターと模擬患者を用いたシナリオトレーニング



全体集合写真



⑥今後の取り組み

今回は、鎮静深度評価をシミュレーターと模擬患者を用いて行った。

次回の学内開催は2015年7月4日の第四回北大阪シミュレーションセミナーの開催を予定している。